

「東北大学 未来の暮らし方を育む泉の創造 豊岡研究室」を設置 ～第2段階へ、豊岡ライフスタイルデザイン事業の推進～

東北大学と共同研究を行っている「豊岡型ライフスタイル」を推進するため、豊岡稽古堂内に東北大学大学院環境科学研究科古川研究室の分室を設置する。

1 経緯等

- (1) 本市では、平成25年度から東北大学名誉教授石田秀輝さん、同大学院環境科学研究科准教授古川柳蔵^{りゅうぞう}さんとライフスタイルデザインの共同研究を行っている。
- (2) 「自然に抱かれた豊岡の新しい暮らし方」の普及に向け、これまで、その第1段階として、シンポジウム、イベント、講演会、小学校への石田教授の出前授業^{ゆきむろ}、雪室実証実験などを進めてきた。
- (3) 今後、広く市民・企業にも参画いただきライフスタイル創出基盤を構築するため、本市に古川研究室の分室を設置する。

2 研究室の概要

(1) 名称

東北大学 未来の暮らし方を育む泉の創造 豊岡研究室

(2) 設置日

5月13日（金）

(3) 設置場所

豊岡稽古堂 1階

(4) 内容

大学職員や学生は常駐しないが、分室機能を示す看板を設置し、この研究室で、市職員や市民・企業が頻繁に連携し、豊岡ライフスタイルデザイン事業を推進する。

古川准教授は、年6回ワークショップなどを実施する。

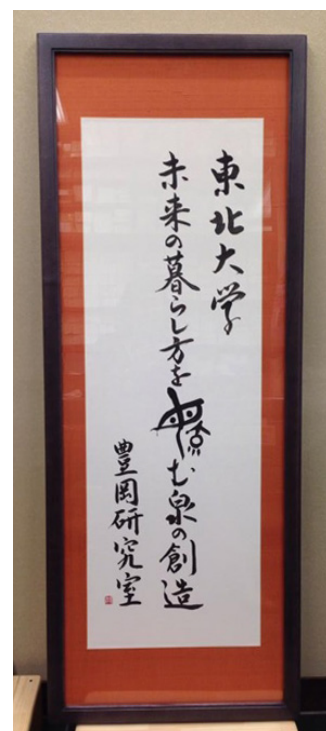
(5) その他

東北大学と共同研究を行っている5つの自治体で、古川研究室の分室を設置する予定である。

《参考》

研究室を設置する自治体（予定）

- (ア) 豊岡市
- (イ) 北上市（岩手県）
- (ウ) 秋田市（秋田県）
- (エ) 志摩市（三重県）
- (オ) 沖永良部島（鹿児島県知名町・和泊町）



（豊岡稽古堂に設置する看板）

3 開所式

(1) 日時

5月13日(金)午後2時30分～3時

(2) 場所

豊岡稽古堂 1階 市民ギャラリー

(3) 内容

- ア 開式
- イ 趣旨説明
- ウ 看板除幕
- エ 歓迎の言葉
- オ 記念撮影
- カ 閉式

(4) 出席者

- ア 東北大学大学院環境科学研究科准教授 古川柳蔵さん
- イ 東北大学大学院環境科学研究科助手 三橋正枝さん
- ウ 産官学豊岡ライフスタイル検討ワーキングメンバー
 - (ア) 雪室検討会
 - a 未来の種(株) 代表取締役 今井 悟さん
 - b (株)中村建設ナカフサ 代表取締役 中村 肇さん
 - (イ) 茅検討会
 - a 但馬茅葺 代表 三木宏祐さんこうすけ
 - b 川中建築 代表 川中青児さん
- エ 市長
- オ 真野副市長
- カ 市職員(環境経済部長等)

4 その他

開所式終了後、産官学豊岡ライフスタイル検討会(茅検討会)を開催する。

[問合せ] 豊岡市環境経済部エコバレー推進課Tel0796-23-4480

古川柳蔵准教授メッセージ

平成 28 年 5 月 2 日

「東北大学 未来の暮らし方を育む泉の創造 豊岡研究室」の設置について

益々厳しくなる将来の環境制約の下においても、心豊かな暮らし方を実現することが求められています。東北大学大学院環境科学研究科イノベーション戦略学分野古川柳蔵研究室は、豊岡市の未来の心豊かな暮らし方を創造し、実現するための施策研究などライフスタイル変革の先端研究を豊岡市と共同で進めます。その研究基盤を確立し、広く市民にも参画いただくため、豊岡市役所内に研究室の分室機能を設置します。大学職員や学生は常駐しないものの、分室機能を示す看板を自治体内に設置し、市役所職員や市民とも頻繁に連携していきます。

看板は、書家の木積凜徳先生に制作していただきました。木積凜徳先生は、以前より本プロジェクトにご関心が高く、本研究を共同で行っている石田秀輝東北大学名誉教授と長期にわたって進めてきた沖永良部島におけるライフスタイルデザインプロジェクトに何度もご参加頂いておりました。看板制作の意義や趣旨をお伝えしたところ、喜んでお引き受けいただきました。この看板の文字には未来への想いを込めています。「未来の暮らし方」という言葉には心の豊かさを込めています。「育む泉」には、新しいライフスタイルが泉の水のごとく溢れ出て、その周囲に緑が増え、生き物が多種多様に生きているかのように、多種多様なライフスタイルが育ち、広がっていくイメージです。「創造」という言葉には、今の依存型で利便性追求偏重型の暮らし方を変革し、制約の中の心の豊かさを追求しようとする強い意志を込めています。「育む」の字には、篆書が用いられています。ほとんどの人が見たことがない字だと思えます。そこに目がいきます。何だろう。足を止めることでしょうか。この字は母が子どもを産むところが表現されています。まさに、未来のライフスタイルを産み、それを育てることが表現されています。

この看板に込めたメッセージが少しでも多くの人的心里に残り、一人一人が現在の暮らし方を見直すきっかけになることを心より願うと共に、分室機能の設置によって、ライフスタイル変革の先端研究を一步でも前進できれば幸いです。

東北大学大学院環境科学研究科
古川柳蔵